

主日の福音 2025/7/20(No.1365)

年間第 16 主日 (ルカ 10:38-42)

主を愛しているから違いがあっても姉妹になれる



田平教会時代に忘れられない侍者のやり取りがありまして、そこから入ってみたいと思います。リリーちゃんとモモちゃん、ということにしておきましょう。二人は同じ小学1年生で、初聖体を受けた後から早く侍者をしたくてたまらない女の子でした。

モモちゃんは、すでにお姉ちゃんが立派に侍者を務めていて、そのそばについてすぐに侍者の務めを身につけました。リリーちゃんはモモちゃんと良い意味でライバルなので、自分も早く侍者デビューしたがつていました。ついにその日がやって来ました。祭壇で緊張しているリリーちゃんを、会衆席の最前列でモモちゃんが見守っています。

祭壇上で聖変化の場面になると、鈴を鳴らす必要があります。リリーちゃんはいつ鳴らしてよいのかいまいち分かっていません。けれどもモモちゃんは会衆席から今にも飛んで行ってあげたいくらいハラハラして見守っています。ついに、指で文字を書き、「すず！すず！」と指示を飛ばしました。けれどもモモちゃんの指示はリリーちゃんにうまく伝わりません。

文字を書いたとしても、逆さまにしか見えないので分からないのです。するとリリーちゃんも指で字を書いて聞き返しました。「なに？なに？」祭壇の目の前で祭壇の親友に必死でサインを送るのを2メートルくらいの距離で見ながら、聖変化を唱える私の身になってみてください。涙ぐましいADさんですが、笑いをこらえるのは大変でした。

同じ侍者を、同じ時期に始めたとしても、二人は同じにはなりません。今日のマルタとマリアも、同じ家に育ち、同じ宗教教育を当時の受け方で受けたことでしょう。当時は会堂に行って聖書を学ぶのは男性のみでしたら、それを家で聞く女性たちに違いが出てくるのはごく自然な流れです。ある女性は学んできた男性から座ってじっと聞くでしょう。ある女性は、家庭での女性の務めを果たしながら、そこそこ聞いていたかもしれません。

しかし、違う育ち方としたとしても、マルタとマリアは姉妹であり、どちらもイスラエルの今後を担っていく女性です。どちらも神さまにとって必要であり、あるときはじっと聞くマリアが求められますし、あるときはほかのことも同時にこなしながらイエスに聞き従うマルタも必要です。大切なのは、「天の父の求めに、良い方を選ぶ」その繰り返しだと思います。

福江小教区も、マルタとマリアの姉妹関係をこれから考える必要があります。これからときどき話に入れたいと思いますが、福江小教区と浜脇小教区は、イエス様にとって姉妹のような良い関係を築き上げていく時期に来ています。長崎教区全体が、これまで二つの小教区だったところを、マルタとマリアのような姉妹関係に高めていくことになります。

そのために、福江小教区は浜脇小教区を、浜脇小教区は福江小教区

を、互いに学び合い、親しみをもっていく努力をしなければなりません。

みなさんのご家庭に、「福江教会の牧者たち」という本があるでしょう。その第一巻、143 頁に次のように書かれています。

「一八九六年十月、野濱ナツ氏久賀島村から福江村に転住し、産婆を開業した。この野濱氏が福江最初の信者で、当時福江の信者は野濱氏一軒であった。その後、浦兵右エ門氏、木口善吉氏が相前後して転住し、信徒戸数も四、五軒になったようだが、野濱家がその中心になっていた。一室に祭壇が設けられ、福江でのミサはいつもここであげられていたという。また、明治の末頃から小教区が設立される前頃には、本町の『家御堂（いえみどう）』があり、ここでミサが捧げられた。」

最初に、福江の中心部で自分の信仰を公にして生計を立て始めたのが久賀島の助産師だった。それは私たちの先祖が、この世に生まれてくるときに久賀島出身の助産師からお世話になったということでしょう。この一つとっても、福江小教区と浜脇小教区の不思議な縁をもっと学びたいと思いませんか？

交流の機会をもっと設けるなら、福江小教区と浜脇小教区はもっと親しくなれるでしょう。形としては本教会と巡回教会の形になると思いますが、兄弟姉妹のように親しくなれると信じております。

マルタとマリアは、お互いに気付くことの多い姉妹だったと思います。マルタの持っているもの、マリアの持っているもの、お互いに学び合って、自分一人では持てなかった豊かさをもつ相手になりました。

私たちも、これからの時間で、福江小教区と浜脇小教区の上に、喜んでイエスを迎え入れる関係が築かれることを願っています。長崎教区全体に、マルタとマリア、違いがあっても主を愛する兄弟姉妹が増えていきますように。

◆マルタとマリア

10:38 一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。

10:39 彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。

10:40 マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

10:41 主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。」

10:42 しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

年間第 17 主日(ルカ 11:1-13)